

不断の努力で会社設立を成し遂げ 次に見据えるのは地域貢献



與那嶺社長のご両親やスタッフの方々を交えて

与那嶺涼熱 株式会社

沖縄県宜野湾市長田 3-32-6



代表取締役 與那嶺 亮

×

ゲスト 志垣 太郎



沖縄県宜野湾市を拠点に、県内各地で空調をメインとした設備工事を手掛けている「与那嶺涼熱」。長年個人事業主として、高い技術力で信頼と実績を積み重ね、昨年に法人化された設備工事のプロ集団だ。本日は、そんな同社を牽引してきた與那嶺社長の人物像に、俳優の志垣太郎氏が迫った。

— 御社では現在、どのような業務をメインに手掛けておられるのですか。

— 一般家庭や店舗、学校など、様々な現場で空調の取り付け・メンテナンス業務を行っています。今は伊江島での工事が多く、公共工事のほとんどを当社が施工させていただいていますね。

— 與那嶺社長はこの業界が長いのでしょうか。

— そうですね。とは言え、最初は事務職として就職し、それから一度京都に移ってサービス業に就いたこともありましたね。この業界に入ったのは22歳の時。私のおじが同業の会社を経営していたのでそちらに入り、次に別の空調設備会社でも修業を積んで、24歳の時に個人事業主として独立したんです。

— 業界に入って2年ほどで独立ですか！当初から独立心がおありですか？

— ええ。空調業界に入った時から、絶対に自分の会社を立ち上げると決めていました。そのために技術を早く覚えようと、勤務時代には人一倍努力しましたね。仕事を終えて同僚と別れた後、こっそり事務所に戻って溶接の練習をしていました。一番年下だったので、朝も一番早く

出社していましたね。

— 陰で努力されていたのですね。独立後は順調にお仕事をもらえましたか。

— いえいえ。そのため最初は本当にお金がなく、靴が破れてもテープでぐるぐる巻きにして履いていました。(笑)。それでも仕事をする中で次第に評判が広がり、声を掛けていただけるように。これまでお陰様で、仕事を得るための営業はほとんどしたことがないんです。

— それだけ仕事の仕上がりや社長の姿勢が評価されたのでしょうか。現在は複数の従業員さんがおられるそうですね。

— ええ。最初の10年ほどは一人で仕事をしていましたが、そのうち限界を感じるようになり、また法人設立に向けて体制を整えようと、人を雇い入れていきました。ただ、従業員だけでなく、その家族の生活も考えなくてはいいませんから、プレッシャーは大きかったですね。最初のころは、もし失敗したら自分に保

険をかけ、首をくくらないといけないと本気で思っていましたよ。

— それだけ従業員の方々への責任感をお持ちなのでしょうね。長く事業を続けてこられた要因は何だとお考えですか？

— 私の当初からの目標は「40歳での法人設立」でした。そこから逆算し、これまで常に目標を掲げ、それをクリアしてきたんです。個人事業主として独立してからは、基盤を築くために様々な現場へ応援に行きました。そして30歳になった時に「ヨナミネ空調」という看板を掲げ、本格的に一人で仕事を始めるように。それから信頼と実績を積み重ね、ちょうど40歳となった昨年5月、法人化して当社を設立したんです。目標に向かって計画を立て、直向きに突き進む。それが大事だと思っています。

— なるほど。長年の目標は叶えられたわけですが、今後はどのような展望をお持ちなのでしょう。

— やりたいことは、まだまだ山ほどありますね。事業に限らず、様々な形でこの宜野湾市に貢献していきたい。それが今の目標です。

(取材 / 2018年7月)

After the Interview

「独立当初は喜ぶも満足に取れないぐらい、懐事情が厳しかったそうです。そんな状況にも折れることなく、常に先を見据えて一歩ずつ努力を続けてきたことで、與那嶺社長は今の「与那嶺涼熱」さんを築き上げられました。長年をかけて積み重ねてこられた、御社の信頼と実績は決して揺るがないものではないでしょうか。今後のさらなる飛躍を期待しています！」 志垣 太郎 氏